

## イノベーションで課題解決

## アジア共同体を創設

東京大学、韓国科学技術院、中国・清華大学は、イノベーションをテコに課題解決策を見いだす共同体「アジア・イノベーション・ソサエティ」の創設で正式合意した。5、6の両日、ソウル市内で開かれた「アジア・イノベーション・カンファレンス(AIC2009)」で決めた。初代会長には前東大総長で三菱総合研究所理事長の小宮山宏氏を選出した。日中韓とインドなどの主要大学をメンバーにスタート。「アジア・イノベーション・サミット」開催や各種共同研究、制度インフラ改革などを視野に、学術レベルでの東アジア共同体づくりを本格化させる意向だ。

東大など  
正式合意

初代会長に小宮山氏



小宮山氏

った環境問題では、政治的な駆け引きが繰り返されているが、学術分野という「非競争領域」で

協調することで、有効な解決策を見いだせる可能性がある。

6日まで開かれたA I

Cでは、同ソサエティの創設で合意。活動の詳細は今後詰めるが、関係者によると、イノベ

ンサミットの開催や教育面での協力(共同でサマースクール開催など)、起業家育成協力、イノベーションの制度インフラ改革で協調など具体案が議論されたという。活動の担い手となる同ソサエティは、鳩山由紀夫首相が提唱する「東アジア共同体」構想の学術版となり、「横の連携」によるイノベーション創設が期待されている。

アジア・イノベーション・ソサエティは、アジアの主要大学が学術分野で安定・互恵的な協力関係を構築するのが目的。特にアジア諸国の共通課題である地球環境問題や高齢化など、さまざまな課題に対し、イノベーションによる解決策を共同で研究する。

温室効果ガス削減とい